



コーちゃん・オーちゃんの 「見つけた！豊岡元気人」



▲まちゼミではブ回の技を伝授



▲講座の内容をまとめたチラシ



▲第3回から実行委員長として活躍

個性的な店主の魅力を生かして まちを活性化したい！

お客さんと店主との信頼関係に「価格以上の価値」があることを信じ、仲間と共に地元商店街を盛り上げる元気な男性を紹介します。

西村 英治さん(38歳)日高町日置

店主が講師となり、受講者(お客さん)に各店の専門知識を教えたり、実技体験を提供するゼミナール「まちゼミ」。まちを活性化するため、第5回まちゼミ「とくまるゼミナール」の実行委員長を務めるのが、西村英治さんです。

「価格競争」からの脱却

大阪で飲食店のマネージャーを勤めていた西村さん。家業の新聞販売店を継ぐため、8年前に豊岡に帰ってきました。

「大阪では、価格競争は激しかったが、人口が多いので集客に奔走できた。しかし、豊岡は少子高齢化・人口減少が進んでいる。これまでと同じように商売していたら、売り上げが落ちることは目に見ていた」と当時を振り返ります。また、同世代の経営者とは「価格競争では大手に勝てない。地元商店街が衰退していく」といった危機感を共有していました。

3年前、江原駅周辺地域活性化促進委員会、まちの強みや弱みを分析。当時、価格競争から脱却できる最後の手段といわれていた「まちゼミ」で、まちの活性化に取り組む

ことになりました。

店主の魅力で勝負「まちゼミ」

「お客さんには満足を、店舗には新規顧客を、まちにはぎわいを生む取組み」まちゼミ。店舗の特徴や店主の人の柄などを知ってもらい、お客さんとのコミュニケーションから信頼関係を築きます。店舗の魅力を引き出し、まちのにぎわいにつなげます。

平成24年にまちゼミを開催して以降、約半年置きに定期的に開催。これまでに、割烹料理店は「巻きずし」、布団店は「座布団」、仏具店は「お香」の作り方講座などを開催してきました。「実行委員会のメンバーや店主の熱意と行動力に感謝している」と西村さんは話します。

第5回の開催は、8月18日から9月20日まで、日高地域を中心に23店舗(7月3日現在)が参加。「今回は店主にプレゼンテーション研修を用意している。説明が苦手な店主は活用してほしい」とさらなるレベルアップを狙います。

横のつながりで「気付き」

まちゼミの開催前には、店主が集まり「ブラシユアッ

会議」を開催します。そこでは、講座内容をより良くするためにアイデアなどを出し合います。西村さんは「普段は忙しくて自身の店舗を客観的に見つめる余裕がない。他の店主から客観的なアドバイスをもらえ、自身の店舗の魅力に気付くこともできる」と店主同士の横のつながりも大切にしています。

お客さんとの「信頼関係」

地元商店街を活性化するには「お客さんと店主が信頼関係を築くことが大切。まちゼミはお客さんが店舗を訪れ、店主とコミュニケーションを深めるきっかけづくり」と語る西村さん。「お客さんから礼状をいただいたことがあり、この取組みが必要とされていることを感じている。口コミで店舗の評判を広げたい」と店舗ごとのファンづくりの大切さを実感しています。

「豊岡全域が個性的な店舗でまちを元気にできれば」と将来を見据えます。「これからこの取組みを通して、一致団結して地元の活性化を目指して頑張っていきたい」と意気込みます。

ま ち の 話 題

竹野海岸海開き

海水浴シーズンの到来!!

7月1日、竹野浜で竹野海岸海開き（主催・たけの観光協会）が開催され、約200人の関係者が海開きの神事「海水浴安全祈願」に参加しました。

終了後には、山陰海岸ジオパーク推進グループがジオパーク踊りを披露するなど、会場を盛り上げました。また、但馬漁業協同組合の協力で実施されたヒラメの稚魚の放流では、竹野小学校の児童と竹野認定こども園の園児約90人が参加。バケツに小分けされた約700匹を「バイバイ。大きくなって帰っておいで」と歓声を上げながら海に放しました。



▲キャベツをイメージした装いで競争に挑む参加者も

第6回神鍋高原&殿さんそば合同キャベツまつり
盛り上がる早食い競争
旬のキャベツをまるかじり!

6月29日、道の駅神鍋高原で、神鍋特産のキャベツをPRする「第6回神鍋高原&殿さんそば合同キャベツまつり」が開催され、多くの来場者でにぎわいました。

まつりの目玉「早食い競争」では、1kg以上もあるキャベツを丸かじりし、5分間でどれだけ食べられるかを競いました（子どもは千切り200g）。参加者は、しっかりと身が詰まり歯ごたえのある神鍋のキャベツに、必死の形相でかぶりつきました。

子どもの部で優勝した谷口倅盟君（清滝小6年）は「途中きつかったけど、甘くておいしかった」と笑顔で話していました。



▲海水浴を楽しむ園児ら

笑 顔 の 輪

先人から受け継いだ歌と踊りを引き継ぎたい
神鍋民謡保存会（日高）

全国的に民謡ブームだった昭和43年、神鍋民謡保存会は、地域に伝わる民謡「そうだろ節・ヤチャ踊」（昭和52年に旧日高町の無形文化財に指定）を保存・伝承するために設立されました。現在の世話役は約30人。

清滝・西気地区の方を中心に活動しています。



江戸時代、そうだろ節は、時には流血を伴った神鍋山などの所有権争いの解決を祝った席で、歌い出されたといわれています。それ以来、結婚式などの祝宴や盆踊りなどで歌われ、昭和25年に踊りが振り付けられました。また、ヤチャ踊は、地域の盆踊りとして親しまれています。そうだろ節などに関心を持つため、保存会は

後継者育成に取り組みたいという高田さん。一時は、観光産業などで忙しくて、大勢でそろって歌や踊りを楽しむ機会が少なくなったが、地域の方が協力してくださるので、活動を続けられる」と話します。

地域の方にとっては、昔から慣れ親しんでいる歌と踊り。「人間生活の証として、伝承の輪が広がれば」と意気込みます。

※「笑顔の輪」の拡充版を市ホームページに掲載しています